

北白川試験地における社会教育事業の実施について

フィールド科学教育研究センター 山中 公

1. 北白川試験地で初開催の社会教育事業

2022 年度当初、北海道研究林から北白川試験地に異動してきてすぐに、施設長から、人員が増えたこともあり、北白川試験地でも京大ウィークスのイベントができないか検討するよう依頼がありました。京大ウィークスの参加意向は開催の前年度末頃にあり、2022 年度の開催はもう無理だったので、次年度の開催にむけて検討をはじめました。

2. イベント内容の検討

初開催なので、まず、北白川試験地という場所で何ができるのか、というところから検討しなければなりません。自分は修士課程で昆虫について研究しましたので、試験地内で見つけた昆虫について、ネタになり得るかどうか検討を重ねました。そして、京大ウィークスへの参加意向の提出期限までに、イベント内容の大枠を決めました。身近な自然に楽しく触れることで、自然について学ぶきっかけとしてもらいたかったので、基本コンセプトは「昆虫初心者の子供も大人も楽しめる」に決めました。そして、昆虫初心者の大人も子供も楽しめるネタとして、採りやすく親しみやすい昆虫が良いと考え、選んだネタはセミの抜け殻と樹液食昆虫に決めました。

加えて、北白川試験地として初めて京大ウィークスに参加するため、京大ウィークスのための予算の要求も行いました。過去に他施設での開催に携わってきた経験をもとに、開催規模に見合った金額を推定しました。ほぼ要求通りの金額を支援いただけました。

3. 資材の購入

イベント内容を具体的に決め、必要な資材について詳細に検討し、調達しました。代金の支払いに立替払いを多用したのですが、領収書や送り状などの処理が多く発生し、とても時間がかかってしまいました。参加者に楽しんでもらうために、また、参加者になるべく安全かつ快適に過ごしてもらうためにあれこれ購入していると、わりとすぐに予算を使い切りました。例えば、参加者全員分の図鑑や、ピンセットやトレーといった実験用具に、手袋やペーパーウエスといった作業用消耗品。採れた昆虫を持って帰れるようにプラケースも用意しました。スズメバチやカがたくさん生息しているので、スズメバチ退治用のジェットスプレーや、参加者がカに刺されないように虫よけリングや虫よけスプレーも十分な数を用意しました。猛暑が予想されたので、屋外でも一休みできるようにテントも用意しました。

4. 樹液食昆虫採集用のトラップ作成

お金はほとんどかからないけれどちょっと手間のかかる準備として、樹液食昆虫採集用のトラップ作りがありました。このトラップには空ペットボトルを使うのですが、北部構内のゴミ捨て場には、いつもペットボトルの入ったゴミ袋が山と積まれており、このゴミ捨て場を漁れば、十分な数が簡単に手に入るはずだと考えていました。しかし、トラップ作りに適した形状のペットボトルは1回のゴミ漁りではあまり集められず、何度もゴミ捨て場に通ってはたくさんのゴミ袋を開けて、その都度少しずつ集めました。

北白川試験地に設置したトラップだけだと、昆虫が入らない場合も考えられたので、保険として、市街地のすぐ近くにありながらたくさんの昆虫が生息する上賀茂試験地にも、トラップを設置することにしました。そして、全ての参加者にトラップの中身を調べる作業を体験してもらいたかったので、北白川試験地に

設置する分を参加者 1 人 1 個ずつと、上賀茂試験地に設置する分も参加者 1 人 1 個ずつ、さらに予備として数個、ということで、参加者 15 人（少し超えることも想定）に対して合計 40 個のトラップを作りました。

樹液食昆虫は果物の発酵臭が好きらしいので、トラップの中身は、荒く刻んだバナナにドライイーストを混ぜて発酵させたものにしました。

5. 講義資料の作成

講義資料の作成はちょっと難物でした。プレゼンの経験はわずかばかりのものなので、何をどこまで話すか決めるのにかなりの時間を要しました。また、パワーポイントに載せる昆虫の写真やイラストがたくさん必要になりましたが、使用する写真やイラストを吟味するのに時間がかかりました。さらに、ウェブ上に掲載されている写真を使うために、掲載元に 1 件ずつ使用許可願いの連絡をとるのも大変でした。全て快く許可してもらえたのが幸いでした。

また、講義資料のほかに、昼食休憩の時間に参加者に楽しんでもらうためのスライドショーも作りました。午前の部でセミをテーマにしたので、日本に生息するほぼ全種類のセミについて、スクリーンに種名と写真を写しながら、1 種類ずつ鳴き声を流していく、というものです。これには、参加者が使用する教材として購入したセミ図鑑の執筆者が管理するウェブサイトから、許可をもらって鳴き声データを全てダウンロードしました。スライドショーで紹介するセミの順番を教材のセミ図鑑と同じにすることで、図鑑の記述を読みながらそのセミの鳴き声を聴けるようにしました。

6. 本番

午前の部では、見本園に行ってみんなでセミの抜け殻を集めまくりました。熱中症患者が出ないか心配しながら参加者を見ていましたが、これもみんな無事に終わることができ、講義室に戻ることができました。講義室に戻ると、早速、抜け殻の種同定を行いました。たくさん集められたセミの抜け殻により、4 種類のセミを確認することができました。

午後の部では、見本園内に 3 日前に設置したトラップを全員で回収してまわりました。講義室に戻って各自トラップの中身をバットに出してもらい、入っている昆虫を記録してもらいました。カブトムシなどの人気の昆虫が入っていた参加者は歓声を上げていました。

終了後、多くの参加者の満足げな様子を見ることができ、アンケートのコメントも、「先生の説明が分かりやすく興味を引くものだった。器具も充実しており、満足度が高かった。」「と～ってもたのしかったです。自由けんきゅうでバナナトラップやります！」など、好ましいものでした。

7. 初回を終わって

準備などにいくつか改善すべき点がありましたが、予想以上の好評を得ることができ、初回としては十分な結果だったと思います。参加者が「身近な自然に楽しく触れる」ことは十分にできたので、きっと、「自然について学ぶきっかけ」になったはずだと考えています。フィールド科学教育研究センターでは、自然環境に関する様々な問題をテーマとして扱っていますが、これらは、研究者だけが取り組んで解決するものではありません。ですから、社会の大多数を占める一般の人たちにこそ、関心をもってもらわなければならないと考えています。今回のイベントに参加した人たちが、今までよりもっと自然環境について考えるようになるかもしれないし、中には、未来の研究者になる人もいるかも知れません。こうやって、少しずつでも、自然について学ぶ人、関心を持つ人を増やしていけたらいいと考えています。いろいろと準備は大変でしたが、このような意義のある事業に携わるのは、大きなやりがいを感じることができました。